

目的 これからの日本の社会は国際化および高齢化という二要因によって特長づけられる。国際化と日本の家庭という大テーマの下部研究として、今回は家族の役割と学校との関係を在日外国人の親にとって、子供を日本の学校に通わせたことほどのように受けとめているかを理解すること。

方法 日本に生活している外国人家庭の子供を日本の小・中・高等学校に通わせている家族を対象に面接とアンケート方式に拠った。

結果 日本の小・中・高等学校に子供を通学させている外国人の親は日本の学校は「子供の人権を侵害し、家族の役割まで侵かしている」と感じている。そのような現状に対して「日本の母親は自分の考えを持っていき、学校に従順であらうとしている」とみなし「人間として教師と親は対等である」という民主社会の人間関係のルールが子供達に示されていないとみている。